

多摩川流域自治体による広域連携の取組 ～多摩地域の更なる発展に向けた共通基礎データの構築～



八王子市 日本遺産「霊気満山 高尾山」



府中市「ラグビーのまち府中」



調布市 深大寺 国宝指定「白鳳仏」



町田市「南町田グランベリーパーク」



日野市「ひの新選組まつり」



狛江市「巨大絵手紙」



多摩市「ハローキティストリート・しまじろう広場」



稲城市「MECHANICAL CITY INAGI」

令和3年2月

多摩川流域連携自治体

八王子市・府中市・調布市・町田市
日野市・狛江市・多摩市・稲城市

2 広域連携による多摩地域の更なる発展に向けた取組

■ 取組の目的

国の総人口は既に減少局面に入っており、東京都の総人口も2025年をピークに減少し、今後は本格的な人口減少時代を迎えます。人口減少の急速な進行は、生産力の低下や都市の活力に大きな影響を与え、多摩地域においても重要な課題の一つとなっています。

こうした課題に対応していくため、多摩川流域自治体の各市が取り組んでいる種々の施策をこれまで以上に連携・協調し、広域的な視点で取り組んでいく必要があります。多摩地域の自治体が連帯して広域的に協力して取り組むことで、それぞれの自治体がメリットを享受し、ひいては多摩地域全体の発展に寄与することが期待できます。

多摩川流域自治体において、これまで観光分野や防災分野など、広域連携による取組を検討・実践してきた中で一層の連携機運の高まりや、ウィズコロナにおける社会変化を踏まえ、多摩川流域自治体の8市が連携して各市ホームページにて、地域資源（特色・観光）の発信に取り組むとともに、各自治体の共通基礎情報として、人口・面積・財政のほか、産業関連情報や企業へのサポートなど、まちの活力を高める地域振興につながる情報発信を通じて、地域の活性化、ひいては多摩地域全体の連帯と発展につながるよう、自治体間連携を推進します。

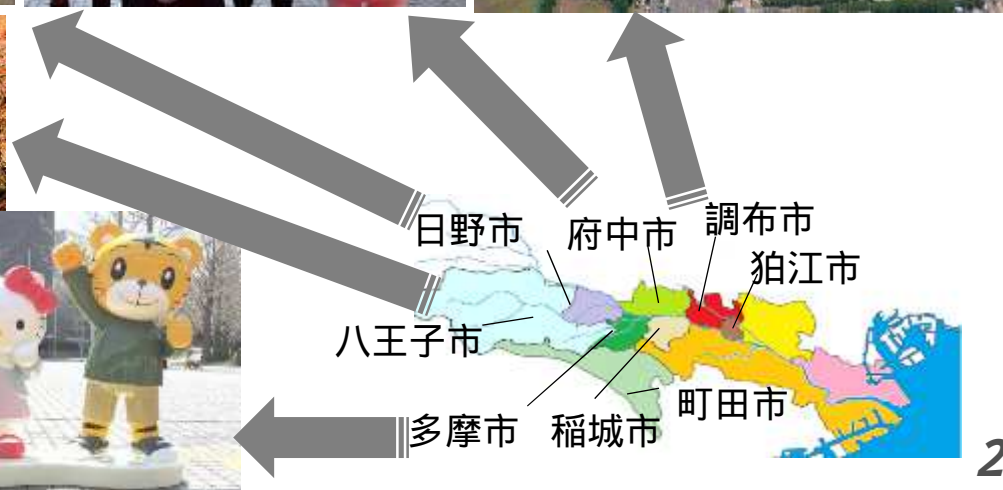
■ 市域を越えた広域連携による共通基礎データの発信

これまで単独自治体で実施してきたまちの魅力発信について、広域的に連携して、各市が相互にまちの魅力のPRや、地域振興に関する情報発信を行うことで、様々な相乗効果を生み出すことが期待できます。

各市がそれぞれのホームページにおいて、共通基礎情報コンテンツ「多摩川流域自治体による広域連携の取組～多摩地域の更なる発展に向けて～」を公開し、多摩地域全体の連帯と発展に寄与する取組を進めます。

項目	八王子市	府中市	調布市	町田市	日野市	狛江市	多摩市	稲城市	市域全体
人口 (注)総務省「住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数」(2019年1月)	56万2460人	26万111人	23万5169人	42万8685人	18万5393人	8万2481人	14万8745人	9万0585人	199万3539人
面積	186.38km ²	29.43km ²	21.58km ²	71.55km ²	27.55km ²	6.39km ²	21.01km ²	17.97km ²	381.86km ²
労働力人口 (注)総務省統計局「国勢調査」	25万9121人	12万8317人	11万1962人	18万4842人	8万3763人	3万7688人	6万4761人	4万2237人	91万2691人
人口増減率(3年前比) (注)総務省「住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数」	0.06%	1.27%	3.87%	0.41%	.44%	3.09%	0.61%	3.57%	-
GDP (注)環境省「地域経済連関表」	2兆1297億円	1兆4631億円	8351億円	1兆2381億円	1兆2370億円	1990億円	6229億円	2519億円	7兆9771億円

■ その他の地域資源(市域を越えた広域連携による魅力発信)



(1) 八王子市



市の概要

八王子市は、東京都心から西へ約40キロメートル、新宿から電車で約40分の距離に位置しています。地形はおおむね盆地状で、北・西・南は海拔200メートルから800メートルほどの丘陵地帯に囲まれ、東は関東平野に続いています。

本市は、大正6年(1917年)の市制施行から、平成29年(2017年)で100年を迎えました。また、平成27年(2015年)4月に東京都初の中核市となり、人口約58万人の多摩地区のリーディングシティとして、21の大学を抱えた学園都市として、発展を続けています。

交通

甲州街道(国道20号)、国道16号(東京環状)、国道411号(滝山街道、青梅街道)の交点となっており、八王子ジャンクションにより、中央自動車道と圏央道との交点にもなっています。

また、鉄道路線は合計7路線(JR中央本線、横浜線、相模線、八高線、京王線、京王高尾線、京王相模線、多摩都市モノレール)が乗り入れて、市内に21もの駅があり、昔から交通の要衝として栄えてきました。



学園都市

～知の力と若いエネルギーがあふれるまち～

21の大学等を抱えた学園都市として、約7,500人の教員、約9万5千人の学生や約2,000人の留学生が在籍・在学しており、知の力と若いエネルギーがあふれるまちとして発展を続けています。

日本遺産

「**霊気満山 高尾山**

～人々の祈りが紡ぐ

桑都(そうと)物語～」

令和2年(2020年)6月19日、八王子市が文化庁に申請したストーリー「**霊気満山 高尾山～人々の祈りが紡ぐ桑都(そうと)物語～**」が東京都初の「日本遺産」に認定されました。

誰もが知り世界が認める「高尾山」をはじめ、日本100名城に選ばれた国史跡「八王子城跡」など、29件の構成文化財を掲げて、本市の魅力語った内容となっています。

この日本遺産認定を受けて、今後も国内外から多くの観光客が見込まれます。



新型コロナウイルス感染症対応

八王子市では、新型コロナウイルス感染症の感染拡大により影響を受けた市内事業者等を対象に、市独自の支援策を実施してまいりました。

○八王子市事業継続緊急支援金

厳しい経営環境にある市内事業者の安定した事業継続と感染防止対策について支援

○八王子市テナント家賃緊急支援金

テナント家賃の支払いが大きな負担となっている市内事業者を支援

○八王子市中小企業者等感染拡大防止対策支援補助金

事業所内における感染防止対策を強化し、継続した経済活動の推進を図るため、感染拡大防止のための環境整備に係る費用の一部を補助

○中小企業者パワーアップ補助金

新型コロナウイルス感染症の影響を受けた産業の早期回復及び活性化に向け、新たな分野への事業展開を促進するため、中小企業が実施する新製品・新サービス等の開発及び販路開拓にかかる費用の一部を補助

● 企業立地支援制度

八王子市内での企業立地・設備投資をサポート

八王子市では、事業施設の新設・拡張、設備の増設に対し、固定資産税・都市計画税・事業所税相当額を3年間各種奨励金として交付します。

奨励金の種類

企業立地・雇用促進奨励金

(市外企業対象)

製造業、物流系産業、宿泊業、商業、事務所の施設を新たに設置(建築、購入、賃借)した市外事業者の方に、3年度分交付します。

市内企業立地継続奨励金

(市内企業対象)

製造業、物流系産業、宿泊業、商業、事務所の施設を新たに設置(建築、購入、賃借)または拡張した市内事業者の方に、3年度分交付します。(市内に本店を有し、継続10年以上操業する事業者の方は固定資産評価額当の要件は適用されません。)

市内に本店を有し、継続10年以上操業する市内小規模事業者等の方が事業施設を新たに設置(建築、購入、賃借)または拡張した場合に、3年度分交付します。

貸し施設設置奨励金

新たに施設を設置(建築、購入、賃借)し、製造業、物流系産業、宿泊業、商業、事務所の事業所の方に賃貸した場合、貸し施設設置者に、3年度分交付します。

産業系用地確保奨励金

製造業または物流系産業の事業者の方、貸し施設設置者に、1,000㎡以上の土地を譲渡した場合、1年度分交付します。(ただし、工業専用地域など住宅が建築できない地域を除く。)

開発・生産設備設置奨励金

製造業の事業者の方(中小企業者の方のみ)が新たに開発・生産設備(購入・リース)した場合に、3年度分交付します。(ただし、対象となる償却資産の固定資産評価額の合計額が3,000万円以上必要です。)

上記奨励金については、業種の種別ごとに指定している「企業立地促進地域内」内で、事業施設の新設・拡張、設備の増設をしていただくことが要件になります。

市内小規模事業者等については、市街地調整区域を除く市内全域が立地対象地域となります。

加算金の種類

加算金は奨励金の他に交付されます。

市内建設業者活用加算金

工場等を新設・拡張する際に市内の建設業社を活用した場合には、工事請負契約額の1%を加算金として交付します。

市内雇用促進加算金

新規に雇用した常用雇用の6割以上が市内居住者の場合には、初年度のみ、一人あたり10万円を加算金として交付します。

(2) 府中市



人口

本市の人口は、市制施行以降増加し続け、多摩地域で3番目の規模となっています。

府中市の人口は、今後も緩やかな増加が続きますが、令和12年前後をピークに減少に転じると予想されています。

本市では、このような人口減少社会へ対応するため、平成27年度に「府中市人口ビジョン」を策定し、将来展望として、平成52年時点で人口25.5万人及び合計特殊出生率1.50を確保することなどを目標と決めました。

位置・特徴

府中市は、東京都のほぼ中央に位置し、東京都の副心である新宿から約22キロメートルに位置しています。豊かな自然に囲まれた良好な居住環境や、都市機能が集積しています。

本市の中心部である府中駅周辺には、約1,300年前に武蔵国の国府が置かれて首都として栄えるとともに、近世には交通及び物流の拠点とした宿場町としてにぎわいを生み出してきました。近年は、昭和30年代から40年代の多くの商店や住宅の立地によって人口が急増しました。

また、市内には電機メーカーや飲料メーカーなどの生産拠点を有していることや、金融や保険会社のバックオフィスとして開発された「府中インテリジェントパーク」が立地し、知識集約型業務として職住が近接する都市となっています。加えて、大規模集客施設として、日本中央競馬会東京場などが立地しています。

交通

交通体系としては、鉄道網は京王電鉄京王線、京王電鉄競馬場線、JR南武線、JR武蔵野線、西武鉄道多摩川線で構成されており、市内には14の駅があります。

都市計画道路は令和2年4月1日現在、計画延長の82.5%が完成しており、多摩地域では比較的高い完成率となっています。

路線バスは、府中駅を中心として各路線が整備されています。



府中市の位置

産業

市内には電機メーカーや飲料メーカーなどの生産拠点を有していることや、ネット通販大手の物流拠点が整備されています。また、金融や保険会社のバックオフィスとして開発された府中インテリジェントパークが立地し、知識集約型業務地として職住が近接する都市となっています。

さらに、本市の工業の特徴として、製造品出荷額は東京都の区市町村別で第1位となっています。(平成30年実績)

観光

府中市は遠く大化の改新後、武蔵の国の国府(役所)が置かれ、名だたる武将たちも戦勝祈願に訪れた場所です。徳川家康がけやき並木を捕植し、馬場を献納し、江戸時代には甲州街道の宿場町としても栄えました。そのため府中市には歴史のある寺社旧跡などが多く残り、くらやみ祭りに代表される様々な伝統行事が継承されています。

また、府中市の魅力を広く発信するため、映画やドラマなどの撮影支援を行っており、多くの支援実績がございます。

●企業へのサポート

府中市では、中小企業の資金繰りを支援する融資あっ旋制度や中小企業の従業員の定着と経営安定を図ることを目的とした中小企業退職金共済掛金の補助など市内企業の支援を行っています。

また、工業技術情報センターでは、専門の技術相談員による企業の技術相談や補助金事業の活用を促進し、専門性の高い企業のサポートを行っています。

さらに、むさし府中商工会議所や多摩信用金庫、日本政策金融公庫と連携し、市内で創業を目指す方へのサポートを行っています。

特色ある地域資源(豊かなビジネス環境)

交通インフラの充実

道路

多摩地域の中でも幹線道路の整備率が高く、東西、南北における交通利便性が確保されています。

また、市内南部には中央自動車道の府中スマートインターチェンジがあり、遠方からの移動の高い利便性が確保されています。

公共交通網(鉄道・バス等)

鉄道駅やバス停留所からの徒歩圏域を抽出すると、概ね市全域がカバーされています。

人、モノが集まる場所の充実

中心市街地

本市の中心にある府中駅周辺においては、多くの商業施設、大國魂神社や馬場大門のケヤキ並木等の歴史・文化資源が集積し、市内外から多くの方が訪れる拠点となっています。また、「中心市街地活性化」の取組を進めており、さらなる賑わいの創出に取り組んでいます。

多摩メディカル・キャンパス周辺

「多摩メディカル・キャンパス」は、都立3病院が一か所に集まる、多摩地域の医療拠点となっており、広域的な医療サービスが図られています。

郷土の森周辺

郷土の森公園周辺では、博物館やスポーツ施設が集積し、市内外から多くの方が訪れています。

府中基地跡地留保地周辺

約14.9haの未利用国有地について、スポーツ施設や商業施設などを含む大規模な土地利用が図られる予定です。近隣に集積する文化施設等と連携し、新たな魅力を創出する取組が進められます。



府中駅前



馬場大門けやき並木

製造業に係る援助の充実

本市では、工業技術情報センターを設置しており、中小企業の新製品開発・新技術等を支援するため専門の相談員による技術相談や補助金事業などを実施しています。当センターでは、専門の技術相談員による技術情報相談指導、科学技術文献情報や特許情報などの技術関連情報の検索・提供を行い、都立産業技術研究センターなどの公的技術支援機関や大学との産学官連携を推進しています。

また、むさし府中商工会議所と連携することで府中市工業技術展「ふちゅうテクノフェア」を開催し、ものづくり産業の活性化支援、中小企業等の優れた技術をPRし、異業種、教育、研究機関の交流を促進することで、技術の向上や販路開拓による取引機会の拡大、企業間連携の実現などを図っています。

大規模事業所等の集積

本市では、「東芝府中事業所」、「日本電気府中事業場」、「サントリー東京・武蔵野ブルワリー」をはじめとする日本を代表する大規模なものづくり産業が立地しており、本市の都市経済を支えています。

(3) 調布市



調布市

市の概要(人・企業にとって魅力となる都市ブランド)

調布市は、新宿副都心から約15km 圏内に位置する人口約23 万人の都市です。

市域の北側は三鷹市、小金井市、東側は世田谷区、南側は狛江市及び多摩川をはさみ稲城市・神奈川県川崎市、西側は府中市にそれぞれ接しています。

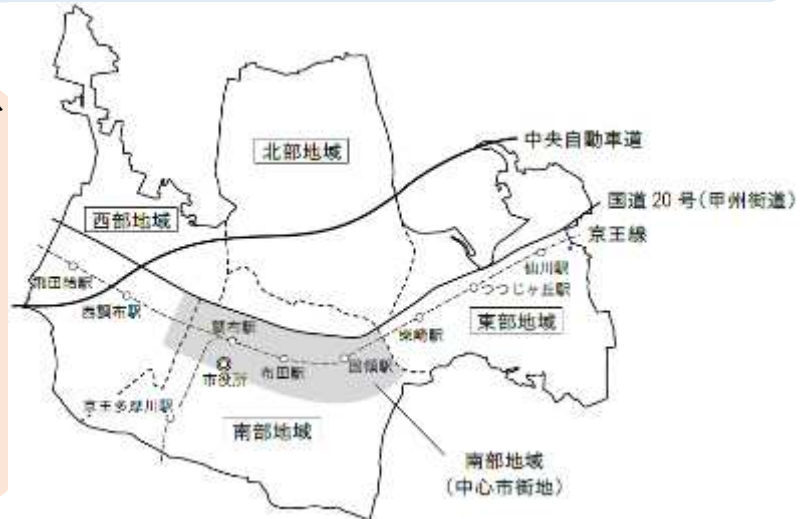
市域は東西約7km、南北約5.7km、面積は21.53k m²となっています。また、市中央部を東西に京王線が走り、これに沿うような形で市街地が連なっています。

交通

市中央部に位置する調布駅は、新宿駅から特急を利用した場合、約15 分で到着でき、通勤、通学の利便性が高いです。また、1日の乗降客数は京王線において新宿駅に次ぐ2番目の1日当たり11 万人強であり、本市の中心駅となっています。

一方、道路交通では、中央自動車道及び国道20 号(甲州街道)が市中央部を東西に横断し、その交差部に調布インターチェンジがあります。

市内西部には調布飛行場があり、本州と伊豆諸島を結ぶ離島航空路線の拠点となっています。以上のとおり、本市は交通利便性に恵まれた立地特性を有しています。



観光

映画のまち調布、深大寺、水木マンガの生まれた街 調布、花火など、調布市の魅力あふれる観光情報を提供しています。詳細は以下のリンクを御覧ください。

- 調布市の観光
- 調布市の歴史・文化財
- 映画のまち
- 水木マンガの生まれた街

映画のまち

市内には、昭和8(1933)年に日本映画株式会社によって多摩川撮影所(現在の角川大映撮影所)が設立されて以来、数多く映画・映像関連の事業所が集積し、「映画のまち調布」として知られています。

昭和30 年代、日本映画の黄金期を支えた本市は「東洋のハリウッド」と呼ばれ、多くの映画スターを輩出しました。

平成29(2017)年には多摩地域最大級のシネマコンプレックスが開業し、さらなる盛り上がりを見せています。



水木マンガの生まれた街

調布市名誉市民・水木しげるさんは、50年以上調布市にお住まいになり、「ゲゲゲの鬼太郎」や「河童の三平」、「テレビくん」など、数々の名作は調布で生まれました。

市は、各所にゲゲゲの鬼太郎のモニュメントやマンホールを設置するなど、「水木マンガの生まれた街 調布」として、街の魅力を発信する取組を推進しており、2018年には、一般社団法人アニメーターズ協会が発表した「2018年版 日本のアニメ聖地88」の一つに選出され、盛り上がりを見せています。



●企業へのサポート

調布市では、創業や経営、事業資金に関する相談、テーマ別の相談会を開催しているほか、創業塾をはじめ、創業や経営に役立つセミナーも開催しています。また、創業支援施設スモールオフィスの貸し出しを行っています。詳細は、市ホームページ (<https://www.city.chofu.tokyo.jp>) から御確認ください。

問合せ先 産業振興センター 042-443-1213

• 開業・創業支援



• 融資・助成



• 経営相談・企業診断



その他の特色ある地域資源(豊かなビジネス環境)

東部地域の特色

市東部地域には世界的に著名な指揮者小澤征爾氏をはじめ多くの音楽家を輩出している「桐朋学園」があり学内やまちなかで様々なコンサートが行われています。

また、世界的に有名な建築家・安藤忠雄氏が設計した「調布市せんがわ劇場」「東京アートミュージアム」等が並んでいる、通称「安藤ストリート」があります。

さらに、明治末期に雑誌「白樺」を創刊した白樺派の文豪「武者小路実篤」が過ごした邸宅跡が現存し、現在は「実篤公園」「武者小路実篤記念館」となっています。このように、東部地域は芸術文化の薫るまちとなっています。



武者小路実篤記念館



実篤公園



東京アートミュージアム



せんがわ劇場

西部地域の特色

市西部地域には、サッカーJリーグの「FC東京」のホームスタジアムであり、収容規模5万人を誇る「味の素スタジアム」があり、サッカーの試合のほか、様々なアーティストによるコンサート等の各種イベントも実施され、大勢の来訪者で賑わっています。また、隣接する「武蔵の森総合スポーツプラザ」は東京2020大会の競技会場ともなるスポーツ施設です。

このように西部地域は文化・スポーツの拠点であり、特に2019年のラグビーワールドカップでは大きな賑わいを見せました。また、新選組局長の近藤勇の生家跡があります。



味の素スタジアム



近藤勇の生家跡

南部地域の特色

市南部には、東京都と神奈川県の間であり悠久の流れをたたえる「多摩川」が流れています。

「多摩川」は、水と緑の癒しスポットとして、週末には多くの市民の憩いの場となっているほか、例年夏には市内外から約35万人の来客で賑わう花火大会が開催され、夏の風物詩となっています。



多摩川緑地公園と花火大会



北部地域の特色

市北部には武蔵野の面影を残す深大寺自然広場等があり、近郊にありながら癒しの自然散策スポットとなっています。

奈良時代に建立された関東屈指の古刹「深大寺」では四季折々のイベントを開催しています。門前には「深大寺そば」の専門店が立ち並び、多くの来訪者で賑わっています。「深大寺」に隣接して、都内最大の広さを誇る「都立神代植物公園」があり、四季を通じて様々な緑や花を展示するほか、バラフェスタやジャズコンサート等のイベントも実施しています。周辺には「深大寺城跡」「深大寺温泉ゆかり」「深大寺水車館」「都立水生植物園」もあるほか、平成29年には深大寺の本尊である「銅造釈迦如来倚像」が国宝に指定され、毎年100万人程の来訪者が訪れる代表的な観光地となっています。



古刹「深大寺」



国宝「銅造釈迦如来倚像」

KEEP ON LOVING , MACHIDA CITY

町 田
薬師池公園
四季彩の杜



まちで
好きを
続ける



南 町 田
グランベリー
パーク



まちで
好きを続ける



町田薬師池公園
四季彩の杜



南町田
グランベリーパーク

●企業へのサポート

町田市は東京都南西部、八王子市の南、神奈川県川崎市・横浜市の西、相模原市の東に位置しており、小田急線、JR横浜線、東名高速道路、国道16号・246号線や鎌倉街道などにより東西南北の交通アクセスが良いことから、多摩地域の中心として商業を中心に発展し、現在でも市外から多くの人々が訪れる都市となっています。

一方で、市内北部の丘陵地域には里山や田園風景が残り、鶴見川の源流を有するみどり豊かな自然が息づく、首都圏の貴重な資産を有しています。また、市内全域には住宅地が広がり、地域子育て相談センターやマイ保育園制度などの子育てに対する支援も充実しています。ここ数年、0～14歳の転入超過数は全国トップ10に入っています。

これらの「職住近接」を実現可能な立地環境は、市内産業にとって多様な機会と可能性を与えており、町田市ではその利点を活かして企業や従業員にとって魅力的なまちづくりをすすめています。

市内に立地する企業には各種奨励制度も設けています。事業を実施するなら、ぜひ町田市で！

●町田市企業等立地奨励事業



(5) 日野市



市の概要 ～東京でありながら、なんとなくホッとするまち～

東京都のほぼ中心部に位置し、多摩川と浅川の清流に恵まれ、湧水を含む台地と緑豊かな丘陵をもっています。

人口は微増傾向が続いており、令和12年(2030年)をピークに減少に転じる見込みですが、令和42年(2060年)には平成27年(2015年)と比較して約99%と現在と同水準の人口が維持できると見込まれています。

「新選組のふるさと」でもある日野市は、副長・土方歳三や六番隊隊長・井上源三郎が生まれ育ったほか、彼らの活動を支えた名主の佐藤彦五郎の屋敷(日野宿本陣)が残っています。

交通 ～人口当たりの駅数トップクラス～

JR中央線、京王線、多摩モノレールで延べ12駅(10拠点)を有し、新宿までは中央線又は京王線で約30分。

また、国道20号、甲州街道、川崎街道が通り、電車でも車でも好アクセスであり、通勤・通学も便利です。



企業支援 ～次世代のイノベーションを創造するまち～

日野市は「工業のまち」として発展してきた歴史を持ち、東京都でも有数の製造品出荷額を誇るとともに、高い技術力を持つ企業が多数立地し、イノベーションの拠点として多摩平の森産業連携センター「PlanT」を設置しています。市内に工場や事業所等を新設・拡張した場合に固定資産税・都市計画税相当額をキャッシュバックする制度(奨励金)などにより、企業立地・企業誘致を進めています。

また、中小企業向けの支援制度として、「事業拡大支援事業補助金」、「販路開拓支援事業補助金」、「魅力ある個店づくり支援事業補助金」、「中小企業事業資金融資あっせん制度」など、多くの支援メニューを用意しています。

企業立地支援制度



PlanT



融資・補助金



住環境・子育て環境 ~子育ての未来は、多摩川の先に。~

日野市は好アクセスかつ広い住まいを検討しやすいエリアとして、子育て世帯に注目を集めている街のひとつです。これからの子育てに必要な自然、社会体験の機会、ICTや子どもたちが主体的に学ぶ授業など、子どもたちがより良い人生を歩むための環境が整っています。また、すべての公立小学校が自校調理方式の給食となっており、日野産農産物を積極的に活用しています。農業体験として農家の方と児童が「顔を合わす関係」をつくることで、食育だけでなく、生き物や生産者への感謝の気持ちも育める機会を設けている点も日野市ならではの。

また、JR中央線日野駅、豊田駅、京王線・多摩モノレール高幡不動駅の3駅周辺に商業拠点があり、市内に均等に存在しているため、日常の買い物、飲食店利用も楽々です。



観光 ~誠の心が息吹くまち~

幕末、土方歳三ら、後に新選組の隊士となる面々が集った日野。都内で唯一残る江戸時代に建てられた本陣建物「日野宿本陣」や、古くから関東三大不動の一つに挙げられる高幡不動尊、多摩動物公園など、多くの見どころがあります。



日野市シティセールスサイト



日野市観光協会



(6) 狛江市



狛江市

こまえてって？



空から見た狛江市

都心に近い コンパクトシティ

コンパクトで住みよいまち
市の面積は6.39km²で、全国で2番目に小さな市です。
地形はほとんど平坦で、徒歩や自転車での移動がしやすいまちです。
日照、通風、採光、排水などの面で健康的な居住環境にあり、ベッドタウンとして発展し、多くの地区が閑静な住宅地です。



狛江駅前

人口は8万3千人 令和3年1月現在

近年は大型マンションの建設などの影響から、10年前と比較して約5,000人の人口増、人口密度は多摩26市の中で2番目に高なっています。

資料: 多摩地域データブック2019年版

東京都心に近接

新宿から南へ約14kmに位置し、電車で約20分でアクセスできます。

東は世田谷区、西及び北は調布市、南は多摩川を挟んで神奈川県川崎市に接しています。

小田急線により上り方面は代々木上原駅へ簡単にアクセスでき、下り方面に向かえば、箱根や江の島、丹沢などの海や山の観光地に行くこともできます。

水と緑のまちなみ

多摩川のほとりでは、四季折々の自然豊かな光景が広がり、ジョギングコース、サイクリングコースとして広く親しまれています。都心の近くに位置しながら、水と緑の安らぎのあるまちです。

Komae's Data

市内の緑が豊かだと感じている市民の割合
83.9%

子育て世帯の割合
15.1%



赤ちゃん広場の様子

昼夜間人口比率
73.80%

緑被率
24.32%

野川



狛江駅

狛江駅一日平均
乗降客数
49,000人

資料: 小田急電鉄(株)交通企画部

企業・創業者へのサポート

市ではさまざまな創業支援、企業への支援を行っています。詳しくは市ホームページを御確認ください。

創業支援

- ・創業セミナー
- ・創業スクール



事業資金・経営相談等

- ・狛江市小口事業資金融資あっ旋制度
- ・小規模企業事業資金融資あっ旋制度
- ・狛江市商工会による中小企業の経営相談等



・シェアキッチンの利用料等の優遇
高架下商業施設に開業した、トライアルシェアキッチン「FORT MARKET 和泉多摩川」(株式会社なかむら商会による)では、創業スクールの修了者などに対し、初月利用料等の優遇を行っています。



FORT MARKET

文化・芸術振興

絵手紙のまち

市内では絵手紙愛好家が多く活動し、絵手紙が駅構内や商店、市内を走るバスなど、市内各所に飾られ、狛江のまちを彩っています。



街中の絵手紙

音楽の街ー狛江

狛江駅前での野外ライブや、市役所でのコンサートを行い、プロのアーティストや公募アーティストの演奏など、誰でも気軽に音楽に参加できる環境づくりを推進しています。



野外ライブ

魅力・地域資源

狛江逸品

市内の元気で頑張るお店を支援するため、「わくわく元気！狛江逸品コンテスト」を開催してきました。これまでに、スイーツ、ラーメン、ランチなどのテーマで開催し、珠玉の逸品が選ばれています。



ブランド農産物

狛江ブランド農産物

GAP(農業生産工程管理)手法の導入により、安心・安全でおいしいことが特徴です。平成26年6月15日から「狛江ブランド野菜」として出荷を始め、都内初のGAPへの取組み「狛江ブランド野菜」で、フード・アクション・ニッポンアワード2015食文化・普及啓発部門に入賞しました。平成30年4月1日からは、新たに「狛江ブランド農産物」として名称が変わりました。



市内の畑

(7) 多摩市



市の概要(人・企業にとって魅力となる都市ブランド)

多摩市は、多摩丘陵地帯の北端部にあり、北の多摩川と南の多摩丘陵稜線に挟まれ、中央を多摩川支流の大栗川とその支流の乞田川が流れる起伏に富んだ一帯です。標高は多摩川沿いで約50m、天王森公園付近が約160m。東経139度27分、北緯35度38分に位置し、北は多摩川を境に府中市、東は稲城市、南は神奈川県川崎市と町田市、西は八王子市と日野市に接しています。令和2年12月で面積は21.01km²、となっています。

沿革

明治22年4月1日の市町村制の施行とともに、旧8カ村と2つの飛び地が合併して多摩村が誕生し、昭和46年の市制施行により、多摩市になりました。この「多摩」という語の語源については諸説ありますが、多摩川の上流の峠で山梨県丹波山地方から起こったという説が最も有力です。上流の川の名である丹波(たば)川が生まれ、この川の名によって地域である郡名の多摩郡も称号するようになったといわれています。

●企業へのサポート

多摩市では、近隣他市と比べ、先駆的に創業支援を開始し、フロントランナーとして多摩地域の創業支援を牽引してきました。「創業・経営相談」や「志創業塾」を実施するほか、創業後の成長を支援する「経営塾」や相談員が事業所を訪問し、課題をお聞きする「市内事業所訪問」など、新たな支援メニューを用意し、創業者や市内事業者の皆さまの支援を行っています。詳細は、市ホームページ (<http://www.city.tama.lg.jp/>) から御確認ください。

・ 創業・経営相談



・ 志創業塾



・ ビジネス支援施設認定制度



・ ビジネス支援施設創業者利用料補助金



・ 産業競争力強化法に基づく創業支援等事業計画と優遇措置



・ 創業・経営支援関係機関



多摩市は、ゆるやかな丘陵地を中心に、水と緑の豊かな自然に恵まれた、多摩ニュータウンの中心都市です。首都圏のベッドタウンとしてニュータウン開発がはじまって以来、快適で便利な住宅都市建設が、計画的に進められてきました。

現在では、単なる住宅都市としてだけでなく、業務・商業・文化・情報・交通などのさまざまな機能を備えた都市となっています。

そこで、このまちづくりをよりいっそう進めるために、多摩市では進出される企業に対し、1億円(本社の場合には1億2千万円)を上限として固定資産税・都市計画税の8割相当額(本社の場合には10割相当額)及び市内に住所を有する常用雇用者数の増加により算出した額を奨励金として最大5年間交付する優遇策を設け、引き続き企業の立地を支援しています。

ただし、奨励金を受けるには、面積要件や常用雇用者数などいくつかの要件があります。詳しくは以下の企業誘致制度のご紹介からご覧ください。

・ 企業誘致奨励のご紹介～多摩市への立地をお考えの皆さま～



インフラの特色

多摩市は、東京都のほぼ中央に位置し、多摩ニュータウンで知られる日本最大規模のニュータウンを中心とした、多摩丘陵の強固な地盤に、高水準な都市基盤と、自然と調和したゆとりある住環境が計画的に整備された街です。京王線・小田急線の2路線で都心にダイレクトアクセス、多摩モノレールで中央線方面へと、多彩な鉄道ネットワークにより、通勤・レジャーなどのお出かけも快適・便利です。道路も広々、高速道路へもスマートアクセスが可能です。

交通

市内には京王線、小田急線、多摩都市モノレールが乗り入れ、東西南北ともにアクセスは軽快です。新宿駅から聖蹟桜ヶ丘駅、永山駅、多摩センター駅へは約30分で到着でき、通勤、通学の利便性が高いです。一方、道路交通では、首都圏の大動脈である「国道16号」にも近く、中央、東名高速道路各インターチェンジの利用が可能です。以上のとおり、本市は交通利便性に恵まれた立地特性を有しています。

日本一長い遊歩道・多摩よこやまの道

多摩ニュータウンの街に網の目のように張り巡らされた遊歩道は全長約41kmにおよびます。特色ある公園や遊歩道と遊歩道を結ぶおもしろい名前の橋、眺望ポイントや文化財、団地の移り変わりなど、見所スポット・立ち寄りスポットが満載です。

万葉集に「多摩の横山」と詠まれた多摩丘陵の尾根部に位置し、全長は約10kmにおよびます。平成27年には、新日本歩く紀行100選「歴史の道」にも認定されました。道の途中には、多摩市域を一望でき、天気良ければ富士山まで望める「防人(さきもり)見返りの峠」や多摩ニュータウンの街並みを見渡せる

「展望広場」などの展望ポイントのほか、随所に四季折々の自然を楽しむことができる自然観察ポイント、史跡や伝説などの歴史ポイントなどがある見所満載の散策コースです。



その他の特色ある地域資源

高度な都市基盤の整備

多摩センターを中心としたエリアは計画的な街づくりが進められています。地盤が安定しているうえに、鉄道、都市モノレールの建設、広幅員の道路や歩行者専用道路の整備、下水道や公園緑地の整備など、都市基盤が十分に整備され、高度な街づくりが進んでいます。

また、多摩センター地区は、無電柱化、景観に配慮した街づくり等、多摩ニュータウンの中心地区として整備が行われています。

災害への強み

多摩市内のニュータウン地域は多摩丘陵のほぼ中央に位置し、海岸や河川から離れており、津波や洪水といった降水被害や沿岸部一帯が抱えている液状化の心配がなく、自然災害に強い街といえます。東京都における「地震に関する地域危険度測定調査」においては、多摩市内のどの地域においても危険度が低くなっております。

・地震に関する地域危険度測定調査



(8) 稲 城 市



市の概要(人・企業にとって魅力となる都市ブランド)

稲城市は、人口約9万人の都市で、東京都心の新宿から南西に25キロメートル離れた、南多摩地区の東端にあり、南東部より西部にかけて神奈川県川崎市と接し、北は、多摩川を隔て府中市、調布市に接し、西部は多摩市に接しています。

市域は東西、南北ともに約5.3キロメートル、面積17.97平方キロメートルで北の境界線に当たる多摩川を一边として、ほぼ三角形をなしています。

自然環境

稲城市は、東京都内でも緑が多いのが特徴で、米軍多摩サービス補助施設とその周囲の樹林地、市内4ヵ所のゴルフ場などのまとまった緑被地があるほか、市街地では梨園を主とした農地が多く分布しています。

また、多摩川、三沢川、谷戸川のほか、歴史のある大丸用水によって良好な水辺空間を形成しており、緑や水辺には多様な生き物が生息しています。

以上のとおり、本市は、豊かな緑と豊富な水にふれあえる自然に恵まれたまちとなっています。

交通

市内には京王線やJR線の駅が計6駅あり、京王線の各駅は新宿駅から約30分、橋本駅から約20分で到着でき、南武線の各駅も川崎駅から約40分、立川駅から約20分で到着できます。

一方、道路交通では、中央自動車道につながる稲城インターチェンジが開通しており、交通弱者のためのコミュニティバスや各駅の高架化により踏切がないことによる道路交通の円滑化も進んでいます。以上のとおり、本市は通勤、通学の利便性や市内外における道路交通の周遊性が高いことが特徴となっています。



インフラの特徴

稲城市は豊かな自然環境に恵まれており、交通アクセスにおいても新宿から電車で約30分という利便性があり、都心の近郊住宅都市という特色があります。

豊かな自然環境としては、多摩丘陵の緑や多摩川の清流に代表され、上谷戸親水公園や大丸親水公園などの水と緑につつまれた公園も数多くあります。

企業へのサポート

稲城市では、創業や経営、事業資金に関する相談、テーマ別の相談会を開催しているほか、創業元気塾をはじめ、創業や経営に役立つセミナーも開催しています。また、開業資金融資あっせんや小口事業資金融資あっせん制度、駅周辺店舗出店補助事業などによる融資・助成も行っています。

• 開業・創業支援



• 開業資金融資あっせん



• 小口事業資金融資あっせん制度



• 駅周辺店舗出店補助事業



• 相談窓口



観光

メカニックデザイナー大河原邦男プロジェクト

稲城市は、メカニックデザイナーとして高名な大河原邦男氏の地元ということで、大河原邦男氏のデザイン作品を稲城市内に設置することや、メカデザイナーズサミットの開催等により、子どもや家族にとって魅力的な街づくりを行い、生き生きとした街を目指す「メカニックデザイナー大河原邦男プロジェクト」を進めています。

このプロジェクトを推進することにより、稲城市の魅力を上させ、地域の活性化、観光事業の推進、定住者の増加等につなげていきます。



自転車のまち

稲城市では、多摩川サイクリングロードや南多摩尾根道路などの自転車を楽しめる場所が豊富にあるため、市内外から多くのサイクリストが訪れます。

また、平成30年にはシェアサイクルを導入し、市内の回遊性を高める環境整備に注力しております。

さらには、東京2020オリンピック競技大会の自転車競技(ロードレース)のコースが市内を通ることが決定しており、大会のレガシーとしてコース沿道となる稲城中央公園内に、市民、公園利用者及びサイクリストの集いの場となる(仮称)サイクルカフェの建設も進めています。

プロスポーツクラブのホームタウン

わがまち稲城のヴェルディ

稲城市をホームタウンとするプロサッカークラブ東京ヴェルディは、2001年の東京移転から、稲城市を拠点として活動しています。

これまでホームタウンデーの開催や街頭フラッグの掲出、京王相模原線稲城駅の列車接近メロディーにテーマ曲を導入するなど、相互に連携・支援を行っています。



読売巨人軍との連携

稲城市は、読売巨人軍のホームタウンとして連携を進めており、京王相模原線京王よみうりランド駅から読売ジャイアンツ球場を通り、よみうりランドに向かう道路「よみうりV通り」には、道路が完成した平成21年に読売ジャイアンツに在籍していた監督、コーチ及び選手計103人の手形が埋め込まれています。

また、同じく京王よみうりランド駅からジャイアンツ球場へ向かう283段の階段「巨人への道」には、長嶋茂雄氏直筆の「巨人への道」の石碑があり、頂上からは、稲城市内はもちろん、府中、調布方面の景色が一面に広がり、夜景スポットとなっています。



よみうりV通り



選手の手形(#6 坂本選手)



長嶋茂雄氏直筆の「巨人への道」の石碑

上記のような観光スポットがあるほか、市と読売巨人軍は、地域社会におけるスポーツの発展と青少年の健全育成に寄与することを目的とした相互協力協定も締結しており、市内の幼稚園・小学校への訪問事業や稲城市フェスタ、ジャイアンツアカデミーの実施など、相互に連携・支援を行っています。

また、稲城市内に商業施設を併設したファーム専用球場を新設し、野球観戦だけでなく都民の憩いの場としても楽しめる「TOKYO GIANTS TOWN(仮称)」とする構想も計画されています。



3 多摩川流域自治体広域による連携の取組

(1) 災害時における小型航空機（ドローン）による広域連携の取組



【日野市】
「災害時における無人航空機（ドローン）を活用した支援活動等に関する協定」
・NPO法人クライシスマップーズ・ジャパン
・府中市・日野市・多摩市・稲城市が平成29年7月に協定を締結

【府中市】
「災害時における無人航空機（ドローン）を活用した支援活動等に関する協定」
・NPO法人クライシスマップーズ・ジャパン
・府中市・日野市・多摩市・稲城市が平成29年7月に協定を締結

【多摩市】 「災害時における無人航空機（ドローン）を活用した支援活動等に関する協定」
・NPO法人クライシスマップーズ・ジャパン
・府中市・日野市・多摩市・稲城市が平成29年7月に協定を締結

【稲城市】 「災害時における無人航空機（ドローン）を活用した支援活動等に関する協定」
・NPO法人クライシスマップーズ・ジャパン
・府中市・日野市・多摩市・稲城市が平成29年7月に協定を締結

協定締結都内自治体 **21市1区**
(令和2年9月現在)

経過	取組内容
平成29年3月31日	「災害時における無人航空機（ドローン）を活用した支援活動等に関する協定」 ・NPO法人クライシスマップーズ・ジャパン・狛江市・調布市が協定を締結
平成29年4月28日	・平成29年度第1回多摩川流域連携会議にNPO法人クライシスマップーズ・ジャパン代表の古橋大地氏（青山学院大学教授）をお招きし、協定の内容やドローンを活用した災害支援活動等に関する説明を依頼 協定の輪が広がり、災害対応能力の向上につながることを期待
平成29年5月9日	多摩川流域連携会議首長懇談会においてNPO法人クライシスマップーズ・ジャパン代表の古橋大地氏から取組を紹介
平成29年7月26日	NPO法人クライシスマップーズ・ジャパンと新たに締結する4市（府中市・日野市・多摩市・稲城市）と狛江市・調布市を含めた6市合同の協定締結式を実施
平成29年12月12日	NPO法人クライシスマップーズ・ジャパンと世田谷区が協定を締結
平成30年4月25日	NPO法人と立川市・武蔵野市・三鷹市・昭島市・小金井市・小平市・東村山市・国分寺市・国立市・東大和市・清瀬市・東久留米市・武蔵村山市・西東京市が協定を締結



【調布市】

「災害時における無人航空機（ドローン）を活用した支援活動等に関する協定」
 ・NPO法人クライシスマッパーズ・ジャパン・狛江市・調布市が平成29年3月に協定を締結
 平成29年度東京都・調布市合同総合防災訓練で実演



< 総合防災訓練により撮影した様子 >

【世田谷区】

平成29年12月12日
 NPO法人と協定を締結



【狛江市】

「災害時における無人航空機（ドローン）を活用した支援活動等に関する協定」
 ・NPO法人クライシスマッパーズ・ジャパン・狛江市・調布市が平成29年3月に協定を締結



災害時における無人航空機を活用した支援活動等に関する協定書

（協定の趣旨）

第1条 この協定は、甲らのいずれかの区域内において災害対策基本法（昭和36年法律第23号）第2条第1号に定める災害（以下「災害」という。）が発生した場合における丙による支援活動及び平時における甲乙丙相互の協力体制について、必要な事項を定めるものとする。

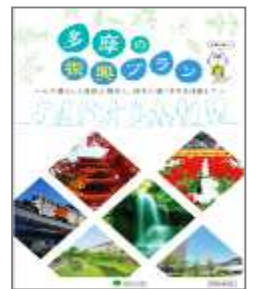
（支援活動の実施）

第2条 甲らのいずれかの区域内において災害が発生し、緊急に支援活動が必要であると認められる場合、丙は、航空法（昭和27年法律第231号）第132条の3（捜索、救助等のための特例）における国土交通省令で定める者として、自主的な判断に基づき次の活動を行うものとする。

- 無人航空機（ドローン）による被災状況の調査
- 無人航空機（ドローン）により撮影した情報の甲らへの提供
- 取得した情報を基にした被災状況反映地図の作成
- 作成した地図データの甲らへの提供及びインターネット上への公開
- 前各号に定めるもののほか、甲乙丙における協議の上定める事項

一部抜粋

月刊「地方議会人」



協定に関する取組の掲載

- 平成29年9月 東京都「多摩の振興プラン」多摩地域における広域連携の取組事例として掲載
- 平成29年12月 議員研修誌「地方議会人」多摩川流域連携会議による広域連携の取組として掲載
- 平成30年3月 東京都「多摩振興事業の実績報告」多摩地域における広域連携の取組事例として掲載

(2) 観光情報等の多言語案内（「Guidoor(ガイドア)」）

による広域連携の取組

「インバウンド観光推進に関するパートナーシップ協定」（平成29年10月5日）
一般財団法人モバイルスマートタウン推進財団と調布市が協定を締結

▶ 各自治体で観光部門等と情報共有を図りながら回遊性の向上に向けた活用・連携の取組

平成29年度第2回多摩川流域連携会議（平成29年10月31日）

- ・ 一般財団法人モバイルスマートタウン推進財団をお招きし、協定内容やスマートフォンを活用した観光情報等の多言語案内に関する説明を依頼
- ラグビーワールドカップ2019™日本大会，東京2020大会等も見据え，協定の輪が広がり，市域を越えて観光地を巡る回遊性の向上につながることを期待

多摩川地域の22市及び2区が「ガイドア」ウェブサイトに掲載済（令和2年9月4日現在）

（調布市，府中市，町田市，日野市，狛江市，稲城市，川崎市，多摩市，八王子市，三鷹市，立川市，小金井市，国分寺市，国立市，東大和市，清瀬市，福生市，昭島市，あきる野市，東久留米市，東村山市，青梅市，世田谷区，中央区）
全国278の自治体で導入済



「Guidoor(ガイドア)」サイトに掲載済の
都内自治体 **22市2区**（令和2年9月現在）

インバウンド観光推進に関するパートナーシップ協定

連携事項

- ・ 日本の伝統文化の海外への紹介に関すること。
- ・ 在日外国人及び外国人観光客等向けに多言語化した情報を提供する仕組みを構築すること。
- ・ 外国人等への観光情報及び避難情報等の提供に関すること
- ・ その他インバウンド観光推進に資する取組に関すること。
- ・ 国内旅行者等への同様の情報提供に関すること。

協定による主な取組

市のインバウンド観光推進を図る取組みとして、訪日外国人観光客等が必要とする調布市の観光施設情報などを多言語化(日本語のほか7言語の翻訳)したウェブサイト「Guidoor」(ガイドア)で提供するもの。また、観光施設等に「Guidoor」へ案内するQRコード付のパネルやステッカーの設置を行い、施設でも観光情報を取得することができるようになります。



特集



調布市おすすめ観光コース

このエリアの観光地と自然を満喫できるコース。基本は徒歩で観光できるが、一部の観光地はバスやタクシーが必要。観光客の多い時期は混雑する可能性がある。



秋西のまち調布 ロケ地巡り

調布市は、秋西のまちとして知られている。ここでは、秋西のまちの歴史や文化を学ぶことができる。また、秋西のまちの美しい風景を楽しむこともできる。



水木マンガの生まれた街調布コース

水木マンガの生まれた街調布コース。ここでは、水木マンガの歴史や文化を学ぶことができる。また、水木マンガの美しい風景を楽しむこともできる。



深大寺そば特産

深大寺そばは、調布市の伝統的な特産品。ここでは、深大寺そばの歴史や文化を学ぶことができる。また、深大寺そばの美しい風景を楽しむこともできる。

10言語に対応

(日本語、英語、フランス語、スペイン語、中国語、韓国語、タイ語、インドネシア語、イタリア語、ロシア語)

観光スポットに設置したQRコードから詳しい観光情報を多言語で案内

緊急情報



緊急時の連絡先・避難場所

Evacuation Map



イベント

地域のイベント情報



東京都、八王子市
八王子市



東京都、府中市
府中市



東京都、調布市
調布市



東京都、町田市
町田市



東京都、日野市
日野市



東京都、稲城市
稲城市



東京都、狛江市
狛江市



神奈川県、川崎市
川崎市

自治体の観光情報

(3) 魅力向上に向けた事業者と連携した取組 (京王電鉄株式会社「街はぴ」)

京王電鉄が運営する沿線情報発信webサイト「街はぴ」との情報発信の連携



行政情報の発信によるまちの魅力向上に向けた取組

共通課題

各市の公式ホームページのみの発信では限界があり、あらゆる媒体を活用した発信が必要
各市の公式ホームページは、紹介できる店舗などに限界がある
市民からの投稿ツールを設けても利用数が少ないなど

平成29年5月26日 多摩川流域連携会議を開催
京王電鉄(株)広報担当が投稿方法、運用方法等について説明・意見交換

各市区において「街はぴ」と連携した行政情報の発信の輪が広がる

<京王電鉄(株)HP「街はぴ」>



さらなる「街はぴ」と連携した情報発信として、広域的な自治体間連携事業を掲載



<京王電鉄(株)HP「街はぴ」みんなの投稿「イベント紹介」>

▼ 編集部からのオススメ

街はぴ編集部から京王沿線のおトクな情報やマニアックな情報をご紹介します。コンテンツです。



多摩川流域自治体イベントラリー ～抽選で特産品が当たる!～

突然ですが、皆さんは「多摩川流域自治体イベントラリー」をご存知ですか?? 多摩川流域の自治体である府中市、調布市、日野市、福生市、多摩市、稲城市、奥多摩町、大田区、川崎市、小菅村、丹波山村、狛江市



(4) 魅力向上に向けた東京都と連携した取組 (東京都企業立地相談センター)

東京都が運営する企業立地に向けた都・区市町村の公募情報や支援制度等の総合案内webサイト「企業立地相談センター」との情報発信の連携

東京都企業立地相談センター

日本語/English > 都庁総合トップページ > 文字サイズ

小 中 大

Top 相談センターとは 東京の立地状況 物件情報 支援制度 事例・特集 お問い合わせ・アクセス 宅建事業者様向け

TOKYO Metropolitan Industrial Location Support Center

東京都企業立地相談センター

私たちにできること

「物件情報+支援制度」をまとめて探せる東京都の相談窓口。
企業立地の専門アドバイザーがご要望をお伺いし、民間不動産事業者へ一斉照会。
都・区市町村の公募情報や支援制度等の情報提供も行います。

民間物件

民間不動産事業者と連携した、都内事業用物件の情報提供

民間不動産事業者へ一斉照会し、企画、募集、事業用地などの案件情報を提供します。

公的物件

東京都・区市町村が保有する、事業用物件のご紹介

東京都・区市町村が保有・管理している事業用物件の公募情報を紹介します。

支援制度

東京都・区市町村の、事業支援制度のご紹介

東京都・区市町村で行っている企業立地支援制度や産業振興施策を紹介します。

↑ PAGE TOP


< 東京都webサイト「企業立地相談センター」 >

都、各区市町村の公募情報や支援制度等についてコンテンツで案内している。

東京都企業立地相談センター

Top 相談センターとは 東京の立地状況 物件情報 支援制度 事例・特集 お

八王子市の振興施策

更新日:2020年11月27日

■ 八王子市の企業支援

本市が属する東京の多摩地域は、輸送用機械器具・情報通信機械器具・電子部品・デバイスなどの付加価値の高い事業に取り組み企業立地し、ものづくりの盛んな地域です。多摩地域の自治体の中で、本市は有力な工業集積地の一つで日本を代表する大企業の研究所が立地しているほか、多くの製品開発型中小企業や、試作加工等を支える多品少量の精密機械加工やプリント基板製造などを手掛ける開発支援型企業も立地しています。本市では電子部品・デバイス・電子回路製造業や測定器・分析機器・試験機などの業務用機械器具製造業や生産用機械器具製造業の集積が東京都全体の構成比率から見ても高く、本市の産業集積の特徴となっています。

また、八王子市は都心方面、山梨・長野方面、埼玉・北関東方面、神奈川・東名方面の4方面の十字路に位置しており、鉄道、広域道路網を利用した交通利便性に優れた場所です。道路網では、中央自動車道が東西に、首都圏中央連絡自動車道(圏央道)が南北に走り、八王子ジャンクションで直結。東名自動車道と接続しているほか、八王子西インターチェンジのフルインターチェンジ化により、圏央自動車道・東北自動車道とそれぞれ接続し、交通・物流の結節点として利便性が向上しています。

さらに、八王子市は周辺部も含め、25の大学・短期大学のような環境のもと、大学・企業・市民・行政が連携、協働し、産学官による共同研究、生産学官の推進、情報の発信、学生と市民の交流等により、地域社会の発展に取り組んでいます。

八王子市の取組案内

東京都企業立地相談センター

Top 相談センターとは 東京の立地状況 物件情報 支援制度 事例・特集 お

町田市の振興施策

更新日:2020年11月24日

■ 「ビジネスに、働く人に、心地よいまち」を目指します！

町田市は東京都西部に位置し、鉄道は小田急線・JR横須線・東急田園都市線・京王相模原線の4路線が乗り入れ、東名高速道路・首都圏中央連絡自動車道(圏央道)・国道16号線・国道246号線・鎌倉街道などの道路網も充実し、交通の利便性に恵まれた地域です。

このような特性を活かし、町田市は古くから武蔵地区(東京都南多摩地域と神奈川県横浜市周辺)の中心都市として発展してきました。また、2027年には近接地域にリニア中央新幹線の停車駅ができ、今後もさらなる経済発展が期待されます。市内には活気あふれる中心市街地と、そこから一足離れた住宅、そして豊かな緑のエリアがあり、子育て支援制度も充実していることから、近年は0~14歳の転入超過者が全国で上位となるなど、居住近接によるワーク・ライフ・バランスを実現するための絶好の立地です。

町田市では市内で活動する事業者や、市内に進出を検討している事業者に対し、町田市トライアル認定制度をはじめとした各種補助金・支援制度や中小企業融資制度、企業立地支援制度等、様々な支援メニューをご用意しています。創業支援にも積極的に取り組んでおり、市内の産業支援機関や金融機関と連携してスタートアップ企業を支援する「町田創業プロジェクト」や、町田新産業創造センターを中心とした新規性・独自性の高い起業家に対する支援も充実しています。

今後も、ビジネスや働く場として選ばれる都市であり続けるために、10年後、さらにその先の町田市の姿を展望した産業振興の方向性を示す「町田市産業振興計画」策定の取り組みを進めていきます。

町田市の取組案内

ビジネスを全力で応援！
いいこと
たくさん
まちだ

町田市
トライアル
認定
2020

< 企業立地相談センターHP「区市町村の振興施策」 >

多摩川流域自治体
8市 × 東京都
「企業立地相談センター」

各市のホームページにおける「多摩川流域自治体による広域連携の取組」のコンテンツと、東京都が運営する企業立地に向けた都・区市町村の公募情報や支援制度等の総合案内webサイト「企業立地相談センター」における区市町村の振興施策を案内するコンテンツが、相互にリンクをすることで各種企業支援制度に加え、企業の投資促進や企業誘致など、まちの活力を高める地域振興に取り組めます。

多摩地域の更なる発展に向けて



八王子市長 石森孝志

多摩川流域の自治体も今後、全国的な少子高齢化・人口減少の影響は避けられず、地域の持続可能な発展に連携して取り組んでいく必要があります。行政が取り組む課題は、ますます多様化・複雑化しており、複数の基礎自治体にまたがって起こる問題も増加していることから、自治体間で課題を共有した上で、連携して対処していくことは非常に重要です。

多摩川流域という歴史的な背景や地理的な環境を踏まえたこの連携によって、流域の発展や魅力向上を図るとともに、人口減少社会に立ち向かう自治体間連携のトップランナーとして、大きな成果を上げることを期待しています。



府中市市長 高野律雄

全国での人口減少が課題となる中、多摩地域においても、この課題は地域をとりまく経済や活力に対し大きな影響を与えていくことが想定されます。

こうした状況の中では、各自治体が取組を進めるだけでなく、市域を越えて自治体が力を合わせて課題に対応していくことが必要です。多摩川流域の自治体は、これまでもそれぞれの市区の特性を活かしつつ、同様の環境や課題を抱える自治体が市域を越えて協力してまいりました。

本市には、ラグビーチームを有する大規模事業所、中心市街地周辺の大国魂神社や馬場大門ケヤキ並木など、多くの魅力的な地域資源があります。これらを最大限に活かすためにも多摩川流域の各自治体情報を一体で発信し、本市のみならず多摩地域全体の魅力を感じて頂くことで、地域の活性化を目指していければ幸いです。



調布市長 長友貴樹

悠久の流れを湛える多摩川に沿って四季折々の自然を共有する多摩川流域の自治体は、そのつながりを生かし、行政区域を越えて連携しながら、共通する行政課題の解決に取り組んでいます。各市が広域的な視野をもって連帯し施策を展開することにより、それぞれの自治体がメリットを享受し、ひいては多摩地域全体の発展に寄与することが期待できます。

また、全国的な課題である人口減少による経済的な影響への対応には、行政のみならず、金融機関や交通機関など民間事業者の協力も不可欠です。豊かな自然環境と都市環境がバランスよく調和した多摩地域の一層の発展に向け、多様な主体と連携・協調しながら、連帯の輪が広がるよう取り組んで参ります。



町田市長 石阪丈一

2020年は働き方の価値観がガラリと変わり、生活と職場の環境を改めて考える機会となりました。

東京の西にある多摩地域は、自然も多く、ほんのり都会で、不自由なことはほとんどない魅力的な地域です。地域としてのつながりもあり、これまで観光やスポーツなど多くの分野で自治体間の連携を行ってきました。

今回新たに8市で行う連携で、各市の魅力発信を行うことは、多摩地域を“好き”になり、働く場や暮らす場として選ばれる地域につながるものと期待しています。町田市も選ばれるまちになれるよう、まちの魅力向上に取り組んでおります。各市が切磋琢磨し、自治体の価値を高め合うことで、多摩地域が発展するよう貢献して参ります。



日野市長 大坪冬彦

人口減少、成熟化社会への対応はこれまでより顕在化し不確実性を増しています。これからの社会がどう変わるのか、地域がどうあるべきか、喫緊の課題と長期的な予測を踏まえた両視点から考えていく必要があるのは、日野市だけではありません。

働き方、働く場所も急変している昨今、多摩地域は今後更に魅力を増すと考えています。個人・企業や団体・地域及び自治体も含めた諸力融合を図りながら広域連携を推進し、多摩地域の更なる発展を推進して参ります。



狛江市長 松原俊雄

調布市長のお声がけにより始まった、この多摩川流域連携会議において、各自治体と連携し、共通課題の解決、多摩川を生かした魅力向上等に取り組んでいます。

近年、人口減少、市民ニーズの多様化・複雑化等により、単独の自治体で行政課題を解決することは困難になりつつあると言えます。全国で2番目に小さな市である狛江市にとって、自治体間で連携し多摩地域という1つの組織としてスケールメリットを生かし課題解決に取り組むことは、その目的の達成のみならず、各自治体の持つ資源を最大限に活用することによる、事業効果の更なる拡大や魅力の相乗効果も期待できるものと思っています。多摩川流域で発展を遂げてきた、魅力的で個性豊かな自治体と手を取り合い、多摩地域の一層の発展に向け、これからもともに歩んでまいります。



多摩市長 阿部裕行

遙か昔、縄文の時代から人々が住み、豊かな自然、縦横に走る街道、多様な文化資源などを糧に発展してきたのが多摩川流域の自治体です。地球温暖化、災害対応、少子高齢化、マイクロツーリズムなど、これまでも多摩川流域連携会議で取り組んできましたが、さらにその重要性は増えています。

また、コロナ禍により、職住近接、テレワーク、自然環境など郊外都市の役割・機能が見直されていると感じています。特に多摩川流域の自治体は、高度経済成長を支え、働く人たちの郊外都市からグローバルとローカルが重なり合う多様性に溢れた自立都市へと変貌しつつあります。誰もが住み、働き、学ぶことに誇りと愛着を持つ多摩地域の発展に向け、連携会議の輪がさらに広がることを祈念しています。



稲城市市長 高橋勝浩

社会情勢の変化にともない、日常生活圏の拡大や住民ニーズの高度化・多様化が進んでおり、自治体の垣根を越えた広域連携による行政課題解決の必要性は年々高まっています。多摩川流域自治体では、連携会議等を通して、これまでも防災、観光、交通面などにおいて様々な連携を図ってまいりました。

私たちの街は、大都市東京にありながらも、豊かな自然と独自の歴史文化を強みとしており、それらに加えて、都市部とは異なる多種多様な「顔」を持っております。今回の取組において、こうした情報を発信していくことで、多摩地域の魅力の再発見や付加価値の創造、ひいては、地域全体の持続的発展に寄与することを期待しております。



【参加自治体】

自治体	所属部署	連絡先	ホームページ
八王子市	都市戦略部都市戦略課	042-620-7335 b400100@city.hachioji.tokyo.jp	
府中市	政策総務部政策課	042-335-4425 kikaku01@city.fuchu.tokyo.jp	
調布市	行政経営部政策企画課	042-481-7369 seisaku@city.chofu.lg.jp	
町田市	政策経営部企画政策課	042-724-2103	
日野市	企画部企画経営課	042-514-8047 kikaku@city.hino.lg.jp	
狛江市	企画財政部政策室	03-3430-1111 kichout@city.komae.lg.jp	
多摩市	企画政策部企画課	042-338-6813 tm032000@city.tama.tokyo.jp	
稲城市	企画部企画政策課	042-378-2111 kikakuseisaku@city.inagi.lg.jp	

本冊子の市の順番は原則として建制順で表記しています。

【オブザーバーとして参加いただいた団体等】

- 国土交通省京浜河川事務所
- 東京都
 - ・総務局行政部
 - ・産業労働局商工部地域産業振興課，東京都企業立地相談センター
- 京王電鉄株式会社
- 多摩信用金庫

【事業協力により参加いただいた団体等】

- NPO法人クライシスマップーズ・ジャパン 代表 古橋 大地氏(青山学院大学教授)
- 一般財団法人モバイルスマートタウン推進財団 代表 志太 勤氏



多摩川流域自治体による広域連携の取組

発行日 令和3年2月

発行 多摩川流域自治体

〔 八王子市・府中市・調布市・町田市
日野市・狛江市・多摩市・稲城市 〕

編集 調布市  行政経営部政策企画課
(多摩川流域連携会議事務局)

〒182-8511調布市小島町2丁目35番地1

電話 042-481-7368～9(直通)

FAX 042-485-0741

Mail seisaku@city.chofu.lg.jp